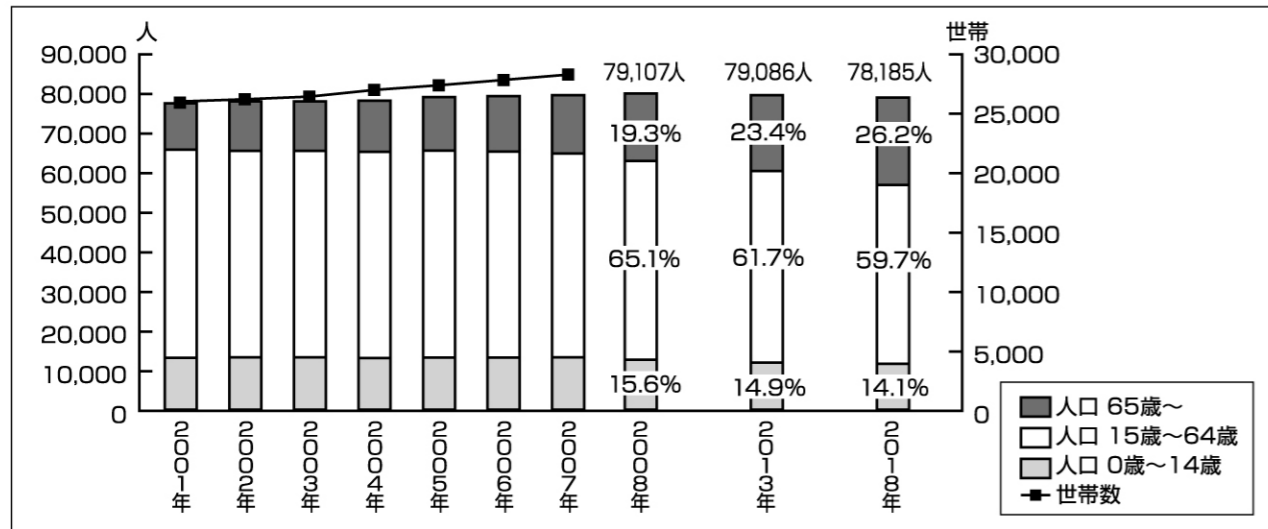


## 資料1 人口の推移と推計

交野市の人口は、2001年頃からほぼ横ばい傾向にある。2005年以降、65歳以上の人口の割合が増加傾向にある。

国や大阪府の人口推計手法を基に、2003年と2008年の交野市住民基本台帳データから2013年と2018年の本市の人口を推計すると、ほぼ横ばい状況となることが予想され、2018年以降は減少傾向になる。この推計値を年齢別にみると、10年以内に65歳以上人口が25%を超え、15歳未満の人口が減少してくると予想される。

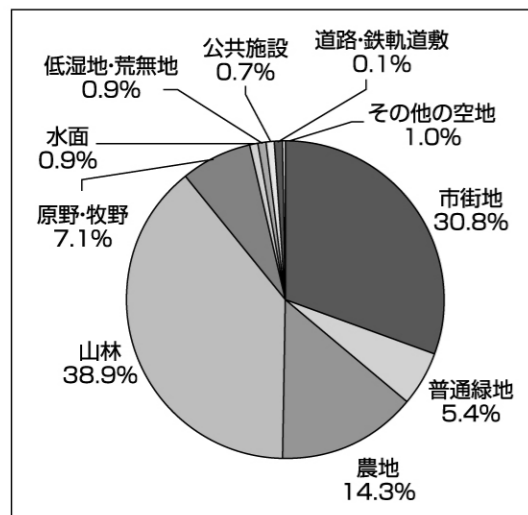
住民基本台帳に基づく3階級ごとの人口と世帯数の推移と予測



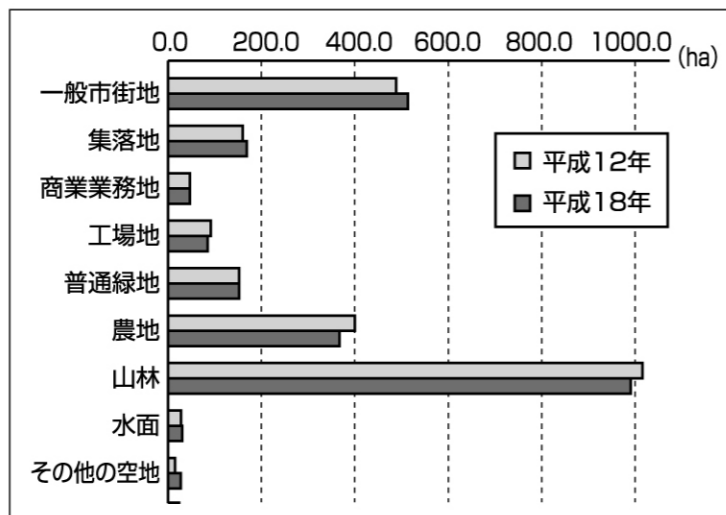
## 資料2 土地利用の推移

交野市は、市域の38.9%が山林で、30.8%が市街地として活用されている。農地は14.3%、緑地が5.4%で、50%以上が緑の空間となっている。市街地では、地区計画によって緑地を積極的に確保し、緑豊かな住環境を保全している地区もある。交野市内での住宅開発のニーズがあり、山林、農地が減少傾向にある。

土地利用状況 (平成18年3月)



平成12年と18年の土地利用の変化



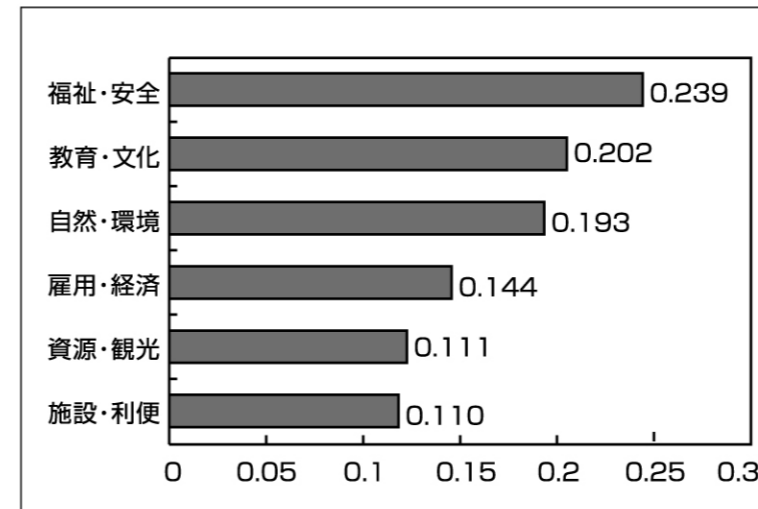
## 資料3 都市イメージに関するAHP調査

市民が交野に求める暮らしのイメージを定量化するための意識調査を実施した。

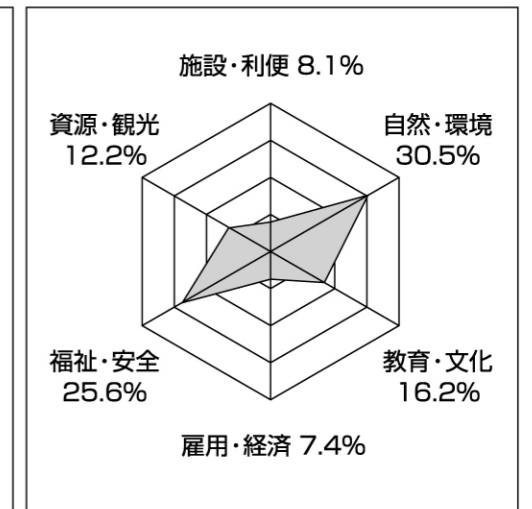
交野市民が理想とする「暮らしたいまち像」で重要な「都市の要素」は、1位が「福祉・安全」、2位が「教育・文化」、3位が「自然・環境」となっている。

また、交野市と周辺4都市を「都市の要素」6項目ごとに一対比較で評価してもらったところ、A市が第1位となり、交野市は第2位である。交野市の評価を「都市の要素」ごとにみると、「自然・環境」「福祉・安全」については相対的に高い評価を得ているが、「施設・利便」「雇用・経済」で低い評価となっている。

「都市の要素」の重要度



交野市の「都市の要素」評価 (割合表示)



(レーダーチャートが作り出す面積が大きいほど、その都市の総合的な評価が高いことを示す)

※この調査はAHP手法(階層分析法:人々の意思や価値観などを数量化し、系統的に分析することにその特徴を有する)を用いて行った。

実施時期:平成20年9月(2日間)

実施場所:いきいきランド交野ロビー

調査実績:回答者数292人(有効回答241人)

作業主体:摂南大学羽石研究室・針尾研究室

## 資料4 中学生アンケート調査

交野市立第三中学校2年生へのアンケート調査で、交野に暮らしていて「よい」と思うものは、「自然・山・緑」など、交野市の緑豊かな環境が異口同音に多数あげている。一方、「気になる」として、「お店・遊ぶ場がない」「ポイ捨て」「不審者」「高速道路」をあげている。地域の中では、「パトロール」「ごみひろい」などが行われていることを知っており、多くがそれをあげている。

「10年後にどのような暮らしをしたいか」については、「交野」「田舎でも都会でもない所」「自然・緑の中」で「のんびり」「普通に」「平和に」暮らしたいという思いが多く、次いで「都会」「便利なところ」で「楽しく」暮らしたいといった結果となった。